
layout: default

電気けいれん療法の施行に影響する薬物

リチウム

リチウムは発作閾値を下げ、譫妄や遷延性発作の危険性が高率になることがある。
リチウムを併用する必要がある場合は、リチウム濃度を 0.6mmol/L以下におさえることが推奨されている。

抗てんかん薬

抗てんかん薬は、けいれん閾値を上昇させる恐れがあるため、減量もしくは中止する。

抗不安薬

ベンゾジアゼピン系の抗不安薬は、けいれん閾値を上昇させる恐れがあるため、減量もしくは中止する。
ベンゾジアゼピン系の抗不安薬がどうしても必要な場合は、[ロラゼパム](http://www.info.pmda.go.jp/go/pack/1124022F1067_2_05/)
(http://www.info.pmda.go.jp/go/pack/1124022F1067_2_05/) (1日0.5mgから1.0mg)が安全と考えられている。

テオフィリン

テオフィリンを併用すると痙攣が持続する危険がある。
テオフィリン濃度が 20g/mL 以上の場合は、減薬する必要がある。

その他

リドカインは別の抗不整脈薬に変え、バルビツレート系麻酔薬は最小量にとどめる。